

銅(電気銅・電線・伸銅品)の需給動向

平成15年度銅地金需給見通し

(単位:千トン)

項目	年度	13年度		14年度		15年度予測			前年度比 %
		実績	見込	上期	下期	合計	上期	下期	
期初在庫		113.6	122.8	120.0	120.0	120.0			2.3
生産		1,405.0	1,413.8	696.3	732.0	1,428.3			1.0
国内鉱出		0.2	0.5	0.3	0.2	0.5			0.0
海外鉱出		1,263.1	1,222.9	601.0	636.8	1,237.8			1.2
その他出		141.7	190.4	95.0	95.0	190.0			0.2
輸入		138.1	107.4	60.0	50.0	110.0			2.4
供給計		1,656.7	1,644.0	876.3	902.0	1,658.3			0.9
内需(報告値)		1,063.1	1,133.5	553.0	564.0	1,117.0			1.5
(見掛値)		1,080.6	1,187.1	576.3	587.0	1,163.3			2.0
電線		688.9	700.2	336.0	346.0	682.0			2.6
伸銅品		349.8	406.2	207.0	208.0	415.0			2.2
その他		24.4	27.1	10.0	10.0	20.0			26.2
輸出		453.3	336.9	180.0	190.0	370.0			9.8
需要計		1,516.4	1,470.4	733.0	754.0	1,487.0			1.1
期末在庫		122.8	120.0	120.0	125.0	125.0			4.2
過欠補正		17.5	53.6	23.3	23.0	46.3			
設備能力		1,496.4	1,496.4	755.7	763.2	1,518.9			1.5
稼働率%		93.9	94.5	92.1	95.9	94.0			

(出典)経済産業省

経済産業省は平成十五年度民間設備投資計画調査の基礎資料として平成十五年銅地金需給見通しをとりまとめた。

銅地金生産は新居浜製錬所の能力増強により、前年度比一・〇%増の二四二万八千トンと僅かながら増加するが過去最高の平成十二年度(二四五万六千トン)比では一・九%の減産となる。

需要は報告値が一・五%減の一・二七七千トン、過欠補正を加味した見掛値が一・〇%減の一・六万三千トンとともに減少する。

用途別報告値ベースには、電線向けが一・六%減の六八万二千トンと、昭和五十年(五九万八千トン)以来の低水準に落ち込む。伸銅品向けは二・三%増の四二万五千トンと二年連続で増加する。国内景気が回復力に欠けることから、電線需要は前年度増加した自動車向けを含めてすべての部門が減少する。伸銅品も需要自体は横ばいにどまることがスクラップ不足に伴う銅地金の代替需要が増加する。

輸入は国内生産が消費を上回ることから一・四%増の二万二トンと必要最小限にとどまり、輸出は中国、東南アジアの需要好調を背景に、九・八%増の三七〇千トンと引き続き高水準で推移する。

この結果、在庫は四・二%増の二万五千トンと適正水準で推移する。

日本鉱業協会 ○三(三五〇)七四五一

鉱山

電線

伸銅品

平成15年上半期銅電線・ケーブル出荷実績

(単位:千トン)

部門	暦年	14年			15年		前年比 %
		上期	下期	計	上期	計	
通信		11	9	20	10	5.0	
電力		42	37	79	38	9.4	
電気機械		97	98	195	98	0.9	
自動車		34	37	71	37	6.6	
建設・電販		164	183	347	164	0.0	
その他内需		31	30	62	25	18.3	
内需計		379	395	774	372	1.8	
輸出		17	22	39	17	5.2	
合計		397	417	814	389	2.0	

(注)1. 四捨五入のため計と合わない場合もある。
2. 前年同期比は数量を丸める前の原伸比率

(出典)日本電線工業会統計

平成十五年上半期の銅電線需要は三八万九千トンで前年同期を二・〇%下回り、マイナス幅は縮小したものの三年連続の前年同期比マイナスとなった。需要部門別にみると前年は通信部門以外の全部門で前年同期比マイナスとなっていたが、本年は電気機械、自動車、建設・電販の三部門がプラスに転じた。

通信部門は、光化の進展に加えNTTの設備投資圧縮が続く、メタルケーブル需要は長期漸減が続いていたが、メタルの定必要需要もあり近年はやや下げ止まりの傾向にある。電力部門も通信部門同様、電力会社の経営効率化と電力需要の伸び悩みにより設備投資抑制強化が続いており、電線需要は減少傾向に歯止めがかからない状況にある。

電気機械部門は、IT不況に加えて電機製品生産の海外シフトにより減少傾向が続いていたが、前年下期より電装品、電子材料の好調と、海外シフトの二服感により下げ止まっている。

自動車部門は、国内自動車生産が千万台ペースで好調に推移しており、これを受けて電線需要も前年を上回る状況にある。

建設・電販部門は、この分野の需要動向と密接な関連のある民間企業設備投資が設備の過剰感や海外生産移管のマイナス要素により回復せず減少傾向にあったが、本年上期は前年並みを維持し、景気回復度合い如何では下期に向け増勢に向かうことが期待される。

その他内需部門は、建設・電販部門同様民間企業設備投資の動向に左右されるが、近年発注形態の変化により需要が建設・電販部門にシフトする傾向にあることもあり、低迷が続いている。

輸出部門は、米国経済の減速や東南アジアの現地メーカーの成長により、引き続き厳しい環境にある。

(社)日本電線工業会 ○三(三五四)二六〇三三

平成15年上半期伸銅品出荷実績

(単位:千トン)

部門	暦年	14年			15年		前年比 %
		上期	下期	計	上期	計	
金属製品		65	70	135	72	10.7	
電気機械		124	135	259	136	9.6	
輸送機械		32	35	67	33	3.7	
精密機械		6	7	13	6	1.8	
一般機械		74	63	137	75	0.7	
建設業		13	14	27	12	1.9	
その他内需		77	83	160	83	6.8	
内需計		391	407	798	417	6.6	
輸出		88	81	169	91	3.6	
合計		479	488	967	508	6.0	

(注)前年同期比は数量を丸める前の原伸比率

(出典)経済産業省統計

平成十五年上半期の伸銅品需要は五〇万八千トンと前年同期を六・〇%上回り、近年の最低水準であった十三年下半期を底に回復傾向が続いている。

金属製品は日用品が文具など低調な域を脱しなかったが、ガス機器は僅かな回復基調を継続、水栓金具や雑貨なども前年同期よりは多少底上げて推移した。

電気機械は半導体が前年の回復期から調整局面に転じ停滞したが、コネクタが自動車向けをはじめ、一部デジタル家電やゲーム機などの堅調で九八・一した他、配電制御装置や弱電部品も若干の回復基調を継続した。

輸送機械は自動車前年下期の堅調な水準を続けたが、春先から調整に転じ、大きな減少には至らないものの頭抑えとなった。

精密機械は前年同期並と若干下押しした推移に終始した。一般機械は空調機器が年初以降前年並みまで戻すなど、それまでの減少基調から下げ止まった動きに転じたが、年央には天候不順の影響も見せ始めた他、輸入増加の影響も顕在化するなど、回復までの力強さは見られなかった。また、バルブ・コックなどは低調横ばいで推移した。

建設業は屋根板、建築管とも底ばいの様相を鮮明にし、近年にない低水準に終わった。

このため、内需計は四二万七千トンと十三年上半期以来の水準とはなしたが、これまでのピーク(三年上期:五五万七千トン)に比べると一・五%減のレベルに留まっている。

輸出は銅管の不調を電子部品向け条製品の堅調や黄銅線などの高水準で九八・一、十二年下半期以来の九万トン台まで回復した。

日本伸銅協会 ○三(三八三)八八〇一